

pickup!



# 第14回 古河花火大会

関東最大級の古河花火大会。市の発展とともに歴史を積み重ねてきた本大会も今年で14回を迎え、約20万人もの来場者でにぎわいました。会場の立地を生かし、広範囲から打ち上げられるワイドスターメインや仕掛け花火、スカイツリーの高さをしのぐ開花直径約650メートルの三尺玉2発を含む、約2万発の花火が古河の夜空を鮮やかに彩り、多くの観客を魅了しました。

## 私たちが見た古河花火大会

日本の夏の風物詩である花火大会。私たちが当たり前のように見ているこのお祭りは、外国人の目線にはどのように映ったのでしょうか。茨城県国際交流員として、県内で多くのイベント取材している2人に古河花火大会の感想を伺いました。



セドリック チャールズさん (アメリカ・22歳)

浴衣で街歩きをしました。落ち着いた雰囲気、景観や建物が多い街ですね。周りにも浴衣姿の人が多く、私の気分はすっかり日本人でした。屋台グルメを楽しみながら開始を待ち、そして、本番の花火はとても荘厳で美しかったです！

また、翌日には2千人を超える人たちが清掃に参加されると聞き、とても驚きました。僕の国ではこのような取り組みはありません。心ある皆さんの奉仕の心に感銘を受けました。今回の花火大会は、これまでで一番最高！



グロリア チェンさん (カナダ・25歳)

今回の一番の驚きは、花火との距離の近さで、目の前で花が開いているよう。目玉の三尺玉は、その凄さをうまく表現できないほどです。音楽付きスターメインが一番楽しめました。さまざまな色や形の花火が絶妙のタイミングで打ち上がり、夜空が花火の舞台になったようです。会場は、家族や友人たちが和やかな雰囲気、花火を楽しむ様子が感じられ、とても心穏やかに、地域の絆を感じました。私の人生で最高の花火でした！